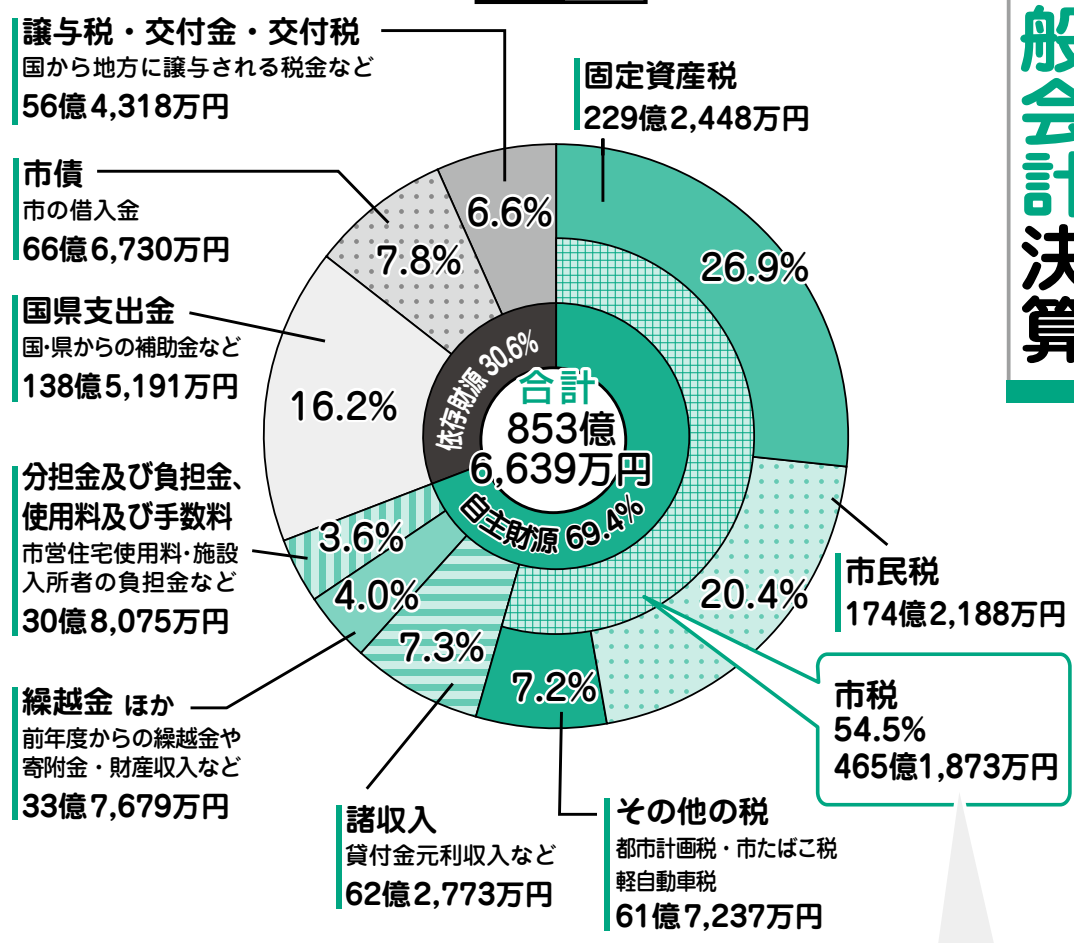


平成23年度 決算報告



一般会計決算

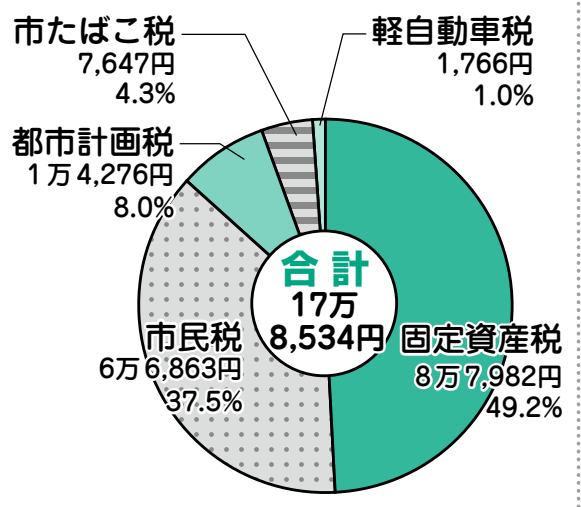
歳入 853億6,639万円



富士市の財政事情はどのようになっているのでしょうか？
あわせて皆さんの納めた税金がこの1年間でどのように使われたのかを確かめてみましょう。

歳入の5割以上は皆さんの市税
歳入の5割以上を占めるのは、市民や企業の皆さんに納めていただいた市税です。平成23年度の市税の決算額は約465億円で、前年度に比べて約5億円の減少となりました。
これは、市たばこ税・都市計画税・軽自動車税が約3億円増加した一方、東日本大震災や景気低迷の影響などにより、市民税・固定資産税が約8億円減少したことが主な要因に挙げられます。


市税収入を 市民一人当たり換算すると 17万8,534円



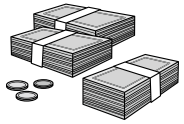
※市民1人当たりの金額は、平成24年3月末時点の富士市の総人口（外国人を含む）26万559人をもとに計算しています（3ページも同じ）。

用語の説明

- 歳入** 年度内に入ってきたお金
- 歳出** 年度内に使ったお金
- 自主財源** 市が独自に徴収することができるお金。市民税、固定資産税、使用料や手数料など
- 依存財源** 国や県などから入ってくるお金。国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税、地方消費税交付金、市債など
- 市債** 市が大きな建設事業などを行うために、国や銀行などから長期にわたって借りるお金
- 国県支出金** 特定の事業の財源として、国や県から交付されるお金



歳出 825億8,410万円



公債費
市債の償還金などに
72億3,270万円

労働費
働く人のために
48億7,399万円

教育費
学校整備や
社会教育などに
77億9,775万円



消防費・商工費ほか
消防・防災対策・商工業振興などに
80億5,962万円



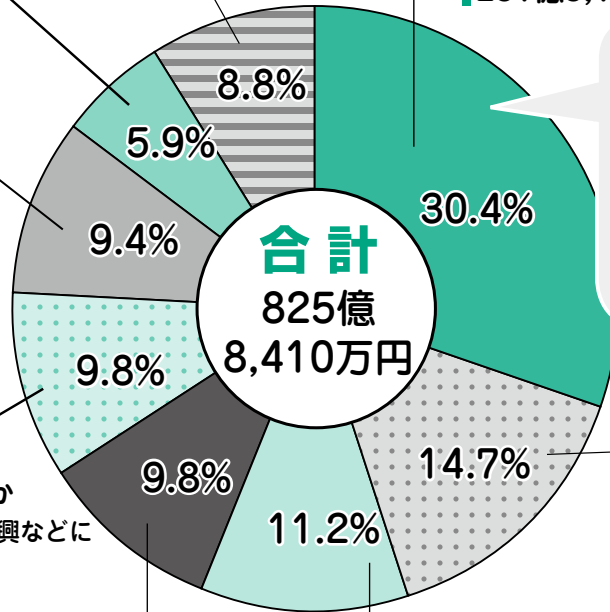
総務費
市の事務管理や
庁舎管理などに
80億9,071万円



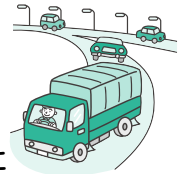
民生費
社会福祉などに
251億5,104万円



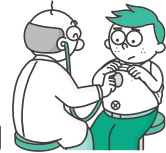
歳出は民生費が1位
歳出を目的別に見ると、福祉関係の費用である民生費が約3割を占め、最も多くなっています。
民生費は、本格的な少子高齢社会の到来を受け、今後も高水準で推移することが見込まれます。



土木費
道路や河川
などの整備に
121億2,407万円



衛生費
保健医療や
生活環境などに
92億5,422万円



特別会計決算 歳入 519億2,188万円 歳出 510億4,208万円

特別会計区分	歳入	歳出
国民健康保険事業	256億7,432万円	252億3,875万円
後期高齢者医療事業	35億9,297万円	35億373万円
介護保険事業	141億9,537万円	140億8,156万円
下水道事業	67億539万円	66億3,274万円
新富士駅南地区土地区画整理事業	8億2,679万円	8億1,071万円
第二東名IC周辺地区土地区画整理事業	4億4,972万円	4億4,441万円
駐車場事業	7,468万円	7,364万円
公共用地先行取得事業	1億135万円	1億135万円

富士市には19の特別会計がありますが、表中では財産管理特別会計（全11会計）を省略しています。

企業会計決算

水道事業

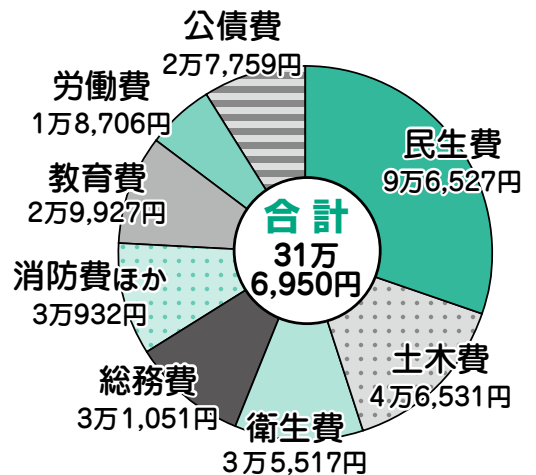
事業収益合計
29億898万円
事業費用合計
26億9,639万円
純利益
2億1,259万円

病院事業

事業収益合計
128億6,052万円
事業費用合計
126億2,231万円
純利益
2億3,821万円

歳出を

市民一人当たり
に換算すると
31万6,950円



※国や県からの補助金などを活用して、市民1人当たりの市税収入の1.7倍以上の行政サービス（支出）を提供することができました。